

2016年12月11日川越教会

天使の役割

加藤 享

[聖書]マタイ福音書1章18～21節

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

[序]ヨセフの驚き

ナザレ村の若い大工**ヨセフ**は、同じ村の**マリア**と婚約していました。マリアは両親と死別し、親戚に育てられたと言われていました。育ての親の意向に従って、同じ村の大工ヨセフと結婚することになっていました。**年は16才位**、ヨセフも若かったことでしょう。早く自分たちの愛の家を持ちたいと、結婚式を指折り数えて待っていたに違いありません。

ところが或る日、ヨセフはマリアから「**聖霊によってお腹に子どもを授かった**」と聞かされたのです。神の霊の働きで、突然お腹の中に、子どもを授かった——そんなことがあり得るのでしょうか。ルカ福音書によれば、天使のお告げを聞いて驚いたマリアは、親戚**エリサベト**の家に行って、**3ヶ月間**過ごしています。祭司の妻エリザベトは、子どもを全く産めない老年になってから、お腹に子どもを授かっていたからです。マリアは**神の御業の不思議さ**をエリザベトの許で十分に確認し、納得してナザレに戻り、ヨセフに知らせたのでしよう。

しかし**ヨセフの悩み**は深刻でした。自分には覚えがありません。マリアの手柄からすれば、信じなければならぬでしょうが、でも、そんなことが現実に起り得るのでしょうか。天使の働きだなどとだまされて、誰かから不倫を犯されたに違いない。しかし表沙汰にすれば、マリアは律法に従って石打の死刑です。自分たちの子だと認めれば、結婚式の前に子どもを作ったりしてと、正しい男の面目を失います。そこでヨセフは、秘かに**婚約を解消**する決心をしたのです。

でもそれが果たして**正しい決断**なのか——悶々として眠れぬ夜を過ごしてい

ました。すると或る夜の事です。夢に天使が現れて語りました。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。」マリアが彼に告げた言葉は真実だよと**裏打ち**したのです。彼は眠りから覚めると、命じられた通りにマリアを妻として迎えたのでした。

夢ほど**あやふや**なものはありません。大体目が覚めると、正確には覚えていないのが夢です。夢はすぐに消えてしまう**はかないもの**の代表のように言われています。ですからヨセフも「変な夢を見たものだ」と言いながら、打ち消してしまうことが出来たはずです。

しかしこの時のヨセフは、眠りから覚めると、苦渋の決断を**変えて**、天使が命じた通り、マリアを妻として迎え入れ、父親として、生まれた子に「イエス」と名付けたのでした。彼は夢のお告げを、**神からの語りかけ**として受け取ることができました。そしてそのお告げ通りを**実行した**のでした。ヨセフは**単なる夢と大切な夢**とを、どうやって区別して決断できたのでしょうか。

[1] あなたの妻マリア

天使の呼びかけ「**ダビデの子ヨセフ**」——これはヨセフに、自分が何者であるかを自覚させることばです。旧約聖書の預言者は「ダビデの家系から救い主が出る」との神の約束を語ってきました。ヨセフはたとえ貧しい村大工であろうとも、ダビデの家系に連なる者です。神がヨセフとその婚約者マリアを用いて、**救い主**を世界に送ろうとなさったとしても、少しもおかしいことはありません。天使の語りかけは**神の約束に合致**しています。その事実を示されて、ヨセフは本気になって、神のお告げに心を向けたのではないのでしょうか。

「**恐れず妻マリアを迎え入れなさい**」新改訳聖書では「**あなたの妻**マリア」と訳していますが、この訳の方が原文に忠実です。マリアは未だ婚約者です。婚約期間中なのですから婚約解消も許されます。ところが天使はマリアを「**あなたの妻**」と言いました。すると彼はマリアの婚約者ヨセフではなく、「**マリアの夫ヨセフ**」なのです。

なぜ縁を切ろうとしたのか？ 式を挙げない前に子どもを作ったと言われて、正しい男としてしての**面目を失う**からです。それよりも何よりもマリアに裏切られたのではないかという**疑いと不信感**は深刻です。身に覚えのない子の父親にさせられるなど、お目出たいにも程があります。でもこれらは皆、ヨセフが**自分の立場**にだけこだわっている姿です。

マリアはどうなるのでしょうか？ たとえ石打の刑を免れたとしても、**不義の女**とレッテルをはられて、独りで子どもを産み、育てていかなければなりません。どんなにつらくて**厳しい人生**が待ちかまえていることでしょうか。生涯を一緒にと誓い合ったマリアを、独りそのようにさせながら、自分だけ安閑として生きていこうとしている。それでよいのか？ お前の愛はその程度のものだったのか？

しかもマリアは「**自分の民を罪から救う**」というお方の**母**となる**大きな役割**を、神から授かったと言っています。それならばその彼女を、夫としてしっかり支えていくことこそ、マリアを愛する男の生き方です。そしてそれがヨセフ自身にとっても、まさしく生き甲斐のある人生を送らせることになるのではないのでしょうか。天使の助言は、**愛をもって意義ある人生を送る**という観点から、自分の行動を決めなさいというものだったのです。

そこでヨセフは、この夢をはかない夢としてではなく、神からの**大切な語りかけ**と受けとめて、お従いすることにしたのでした。

[2] ヨセフの生きざま

その後のヨセフの**生きざま**を見てみましょう。彼は翌朝眠りから覚めると、マリアを**妻として迎えました**。そしてやがて生まれた子に**イエスという名前をつけました**。父親の役目です。ヘロデ王がベツレヘム一帯の二歳以下の男の子を殺した時、彼は夢に再び現れた**天使の指示**にすぐさま従って、マリアとイエスを連れて**エジプトに逃げました**。ヘロデが死ぬと、また**天使の指示**に従い**ナザレに戻って**きて、イエスを育てました。

聖書は**イエスの成長の様子**をこう記しています。「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、**神の恵みに包まれていた**。」「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、**神と人**とに**愛された**」(ルカ2：40、52) 体も頭も心も調和のとれた成長ぶりです。これはヨセフとマリアの**家庭の反映**にほかなりません。イエスが成人しますと、ヨセフは歴史の舞台から静かに退場していきました。何という**素晴らしい生きざま**でしょうか。

62才の男性の文を読みました。「同僚や家族にも言えないような**悩み**が生じた時に、**人生の本質を考えると**ころに立って、**悩みと正面から**向きあえるように**支えてくれる人**と相談していたら、どんなに良かったことだろうと悔やまれる」

若いヨセフも婚約者のマリアから「神の霊によって身重になった」と告げられて、**動転**してしまいました。**誰にも相談できません**。独り苦しみ悩みました。ひそかに婚約解消を決心したものの、なお悩んで眠れぬ夜を過ごしていました。すると**夢に天使が現れて**語りかけてくれたのです。天使はヨセフに、**自分の立場**を自覚させ、悩みと正面から向き合って、**どう生きるべきか**を考えさせるように、導いてくれました。

62才の男性は良い助言者にめぐり合えなかったと嘆きました。今週の聖書教育少年少女科のテキストのコラムには、三浦綾子の出世作「氷点」が紹介されていますね。病院の院長辻口啓造も、心の中の底なしの洞窟から、次から次へと湧き出てくる恐ろしい思いに翻弄され続けています。ところが若いヨセフは**天使という素晴らしい助言者**に出会って、人生を一変させました。では62才の男性も、病院の院長も、どうしてヨセフのように天使という素晴らしい助言者と出会わなかったのでしょうか。

パウロは「天使たちは皆、**奉仕する霊**であって、**救いを受け継ぐこと**になっている人々に仕えるために、遣わされたのではなかったですか」(ヘブライ 1:14)と言っています。天使とは、神からの**救いを受け継ぎたいと強く願う者**に、神が送ってくださる**奉仕する霊**なのですね。

ヨセフは、自分もマリアも**共々に救われたい**と強く願ったのです。ですから神は**天使**をヨセフのもとにお遣わしになりました。そしてヨセフは遣わされた天使に聞こうとしました。そして**奉仕する霊**を頂きました。そして妻マリアを支え助けて、**マリアに与えられた使命**と一緒に果たして行く人生、**奉仕する人生**を選び取ったのです。

【結】ヨセフのように

世界を闇にしているのは、私たちが自分のことばかり考えて、**周りの者にいたわりの手をさしのべない**からです。ヨセフも**自分にこだわっている**間は、心が暗闇でした。しかし神から送られた奉仕する霊・天使によって、**自分よりも弱い立場にあるマリア**を思いやり、彼女に仕えていく道を示されました。そして救い主イエス・キリストを守り育てて、世に送り出していく**意義ある人生を送る**ことが出来たのです。

世界の一番低い所に救い主イエス・キリストを誕生させて下さった**愛の神**は、ヨセフだけに限らず、悩み苦しみ悲しむ者全てに**天使**を送って下さっておられ

ます。**自分を守ろうとする私たちに**、もっと弱い立場にある人を思いやり、仕えていこうとする心を与えて、私たちに**闇から救い出してください**のです。

ヨセフは平凡な村の若者でした。ですから私たち誰もが**ヨセフになれる**のです。クリスマスを迎えるに当たって、私たちは耳をすませて、**天使を通して語る愛の神の語りかけ**を聞き取ろうではありませんか。そして**人に仕えて生きる**喜びを輝かそうではありませんか。

祈ります：神さま、クリスマスが近づきました。今日もヨセフとそしてマリアを救って下さった天使の働きを学ぶことが出来たことを感謝します。私たちはつい自分のことを第一にして行動を起こしてしまいがちです。どうか相手の立場、自分よりも弱い立場に心を寄せる者にして下さい。あなたは世界のすべての人を救おうとして、イエス・キリストとなってこの世に来て下さいました。そしてこの私たちをも、あなたの愛を信じて生きる者にして下さいました。十字架の愛に包まれて生きる者にして下さいました。感謝します。ヨセフのように、あなたがお遣わしになる天使の語りかけを聞きとり、その言葉に聞き従う者にして下さい。自分よりも弱い者に仕えていく歩みをさせて下さい。救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン